

イラストふりがなバージョン



外国人労働者のさらなる増加、ラグビーワールドカップや東京オリンピック等を控える中で、外国人の皆さんへの防災啓発はますます必要かつ重要度を増しています。しかし、現状では外国語パンフレットの配布や地震体験車への搭乗等にとどまっており、決して十分とはいえないのが現状です。

また、子どもから老人までの防災生涯学習の中で、小学生でも手軽にできる効果的な防災教材が求められています。

HUG イラストふりがなバージョンとは ～かわいいイラストとやさしい日本語で外国人や子どもと HUG!～

1 HUG とイラストふりがなバージョン

HUG は、2007 年に静岡県が開発した避難所運営を学ぶゲームで、現在全国に普及し、東日本大震災や熊本地震等の実災害で役立った実績があります。イラストふりがなバージョンは、カードの内容をかわいいイラストとやさしい日本語にし、外国人や子どもたちと楽しくできるようにしたものです。

2 ゲームのしかた

ゲームは、読み上げ係 1 人、プレーヤー 5～6 人で行います。避難所となったある小学校を舞台に、避難者の情報が書かれたカードを順番に読み上げながらプレーヤーに渡します。プレーヤーは、次々とやってくる様々な事情を抱えた避難者を、体育館や教室に誘導すると同時に、避難所で起こる突発的な出来事に対応していきます。



3 世帯名を、よく使われる防災用語に

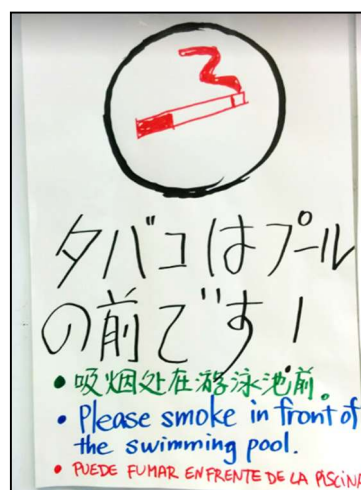
HUG では、防災用語に親しんでいただくために、避難者の世帯名を防災用語にしていますが、東日本大震災被災地取材し、震災時によく使われた用語を追加しました。

また、お祈りの場所の確保、宗教と食事のことなどもイベントとして盛り込みました。

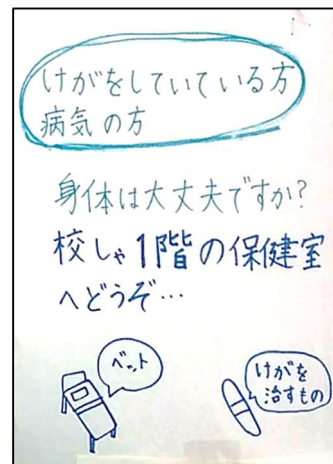
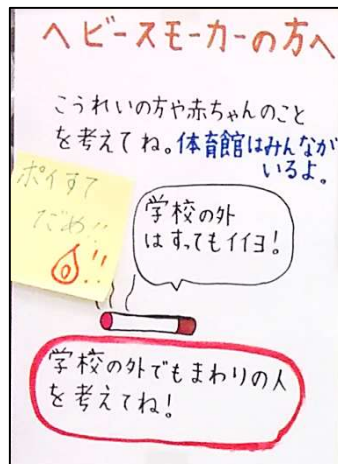


※お問い合わせ先 「HUGのわ」で検索してください。

参加者が協力して作成した多言語掲示物



小学生が作成した思いやり掲示物



外国人参加者の感想

- ・ 避難所のことは全然わからなかったが、今はわかる。
- ・ 避難所の運営の体験できて、楽しかった。
- ・ みんなで力を合わせてやれてよかった。
- ・ 地震の時、避難所に避難しても良いことが分かった。
- ・ 楽しかった。とても楽しかった。
- ・ HUGは役に立つと思った。
- ・ 勉強になった。後輩に今日の話をしよと思った。
- ・ またやりたい。
- ・ とても重要な研修だと思った。もっと多くの人に受けてもらいたい。